

熊本空港における輸出入通関体制の強化について

1. 背景

熊本県への台湾の世界的に有名な半導体メーカーの進出に伴い、熊本を中心に半導体関連産業及び物流事業者が相次いで進出・集積してきており、半導体及び半導体関連品をはじめとした貨物の輸出入が増加しています。これらの輸出及び輸入に当っては、現在、福岡空港や関西国際空港等が主に利用されていますが、輸出入事業者等からリードタイムの短縮や地元経済（空港）の活性化の観点から熊本空港を利用したいとするニーズが高まっています。

このような中、熊本空港では、国際物流に必要とされるインフラ整備が進んでおり、今後、輸出入件数が大きく増加に転じることが予想されます。

長崎税関としては、これらの状況を踏まえ、熊本空港での輸出入貨物の増加に伴う適正かつ迅速な通関手続の確保のため、八代税関支署熊本空港出張所（以下「熊本空港出張所」という。）の通関体制を本年7月から強化することとしました。

2. 具体的な強化策

（1）通関体制の強化

熊本空港出張所では、現在、入国旅客の対応を行うために配置された職員が、輸出入貨物の通関手続についても対応していますが、増加する輸出入貨物に対応できるよう、新たに、通関手続きを専門的に執り行う「上席審査官」及び「審査官」を本年7月1日に設置し、通関体制を強化します。

（2）通関ニーズへの対応強化

熊本空港出張所では、通関体制の強化により、増加が予想される輸出入貨物に対する適正かつ迅速な通関手続の確保に加え、通関に関する相談や平日及び土日祝日における税関の開庁時間外の輸出入申告についても、これまで以上に柔軟に対応できるようになります。